

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 6 年度病虫害発生予察技術情報第 11 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 11 号（コムギ黄斑病）を発表したので送付します。

本年の 2 月 5 半旬調査において、コムギ黄斑病の発生が生育初期より確認され、発生ほ場率が 42.9 % と令和 2 年度以降で最も高くなっています。なお、昨年度の同時期に本病の発生が確認されたほ場では、出穂期以降に発生が拡大する傾向がみられました。

本病が上位葉に進展すると、収量・品質に影響を及ぼす恐れがありますので、出穂期までに薬剤防除を徹底してください。

技術情報第 11 号

1 作物名：小麦

2 病虫害名：コムギ黄斑病

3 被害と発生生態

(1) 小麦の葉及び穂のみに発病する。

(2) 本病は、発病初期には葉に黄褐色楕円形の小さな斑点を生じ、のちに拡大して灰褐色、楕円形～紡錘形の病斑となり（図 1）、さらに隣接する病斑と癒合して不整形を呈し、周縁部が淡黄色となり、葉先の部分が褐色に枯れる（図 2）。

(3) 冬期の茎立ち前（1 月頃）から発生し、出穂期頃から上位葉へと病斑が拡大する（図 2）。

(4) 第一次伝染源は、罹病残さに形成された子のう胞子で、二次伝染は病斑上に形成された分生子によって行われる。



図 1 葉の病斑（2 月下旬）



図 2 葉の病斑（出穂期以降）

4 発生状況

県内 14 地点の調査ほ場における 2 月 5 半旬調査の結果、コムギの発病茎率は 1.9 % (前年 0.02%)、発生ほ場率は 42.9% (前年 14.3%) で、発病茎率・発生ほ場率ともに前年より高かった (図 3)。

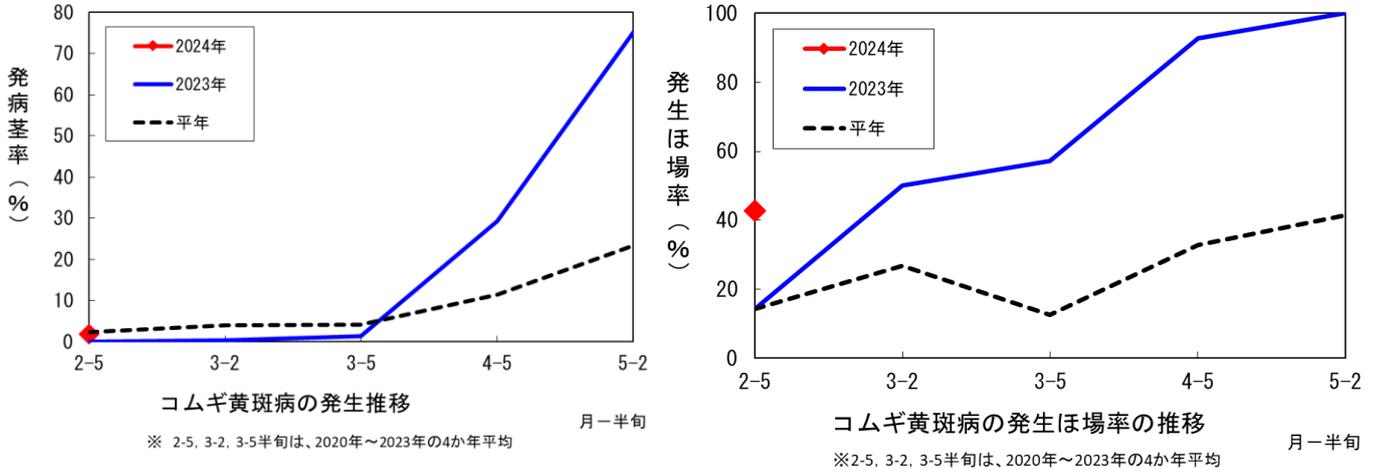


図 3 コムギ黄斑病の発病茎率と発生ほ場率の推移

5 防除上注意すべき事項

- (1) 畑地作物の連作ほ場では、前作の罹病残さが残りやすく発病が危惧されるため、発生状況をよく確認する。
- (2) 出穂期までにチルト乳剤 25 等の効果の高い薬剤で防除を行い、発病程度を低く抑える。
- (3) 前作の罹病残さは第一次伝染源となるため、発生ほ場では水稻との輪作に切り替えるか、麦種を小麦から大麦に切り替える。
- (4) 分解を促進させるため、罹病残さは細断して地表にでないようていねいにすき込む等適正に処分する。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①



○Twitter (ツイッター) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitter の本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右 QR コード②

